

*DRAFT*

## 簡易仕様書

アプリケーションのネーム

ワンクリックで探せる！周りのお店検索

対象 OS およびブラウザ

以下のブラウザ及び OS 環境での作動テストを実施する。

Fenrir Sleipnir 6 ver. (OS: windows 10)

microsoft Edge 110.0.1587.63 ver. (OS: windows 10, linux ubuntu, linux mint)

google Chrome 110.0.5481.178 ver. (OS: windows 10, linux ubuntu, linux mint, android 13)

mozilla Firefox 110.0 ver. (OS: windows 10, linux ubuntu, linux mint)

開発環境

OS : ubuntu 22.04

Code editor: Visual studio code

Web server: NGINX 1.18.0

構成言語

JavaScript 66.5%

CSS 19.2%

HTML 14.3%

開発期間

開発内容／日	23	24	25	26	27	28	01	02	03	04	05	06	07	08	09
基礎設計															
開発環境のミドルウェア設定、API 連動															
地図(leaflet)連動、Geolocation API 連動															
検索機能実装															
お店の詳しいページ実装															
スタイル定義															
Aws ホスティング作業															
Proxy サーバ実装															
テスト															

機能一覧

機能名	機能概要	モバイル対応	実現方法
地図	探したい場所や探した店の位置を表示する	可変スタイル	Leaflet OpenStreetMap モジュールを設置して適用
現在地検出	使用者の現在地に地図を移動させる		Geolocation API を使って現在地の取得
お店検索	定めた半径内で店を探す		Hotpepper API の位置規範検索クエリで実装
検索半径調節	地図のズームバートンと連携され検索半径を調節する		マップの現在の状態を取得して検索に関わる変数に保存
検索半径インディケーター	地図のズームレベルと連携されて検索半径を表示する	可変スタイル	マップの現在のズームレベルを取得して見せる
さらに検索	定めた検索半径から他の店をさらに探す		Hotpepper API の start パラメータを変更することで実装
お店リスト	探した店の情報をリストとして表示する クリックしたら外套のお店の詳しいページに移動	可変スタイル	API からロードされた情報を Promise 形式で処理してレンダリング

フレームワーク(設置したライブラリ含む)

```
React: 18.2.0  
leaflet: 1.9.3  
http-proxy-middleware: 2.0.6
```

## 設計ドキュメント

設計ドキュメント.pdf ファイルを参照してください。

## コンセプト

Google の検索画面のようにシンプルで直感的なアプリケーションを目指しました。

## こだわったポイント

地図を見ながら検索できるように地図の状態と検索ボタンを連動させて unnecessary ボタンを削除しました。

これによって検索する際、検索範囲、位置などを一つ一つ設定しなけりばならなかつた煩わしさを解消し、より快適な検索環境を構築しました。

## デザイン面でこだわったポイント

画面から見られる検索や機能ボタンの数を抑え、シンプルで直感的なアプリケーションの実現。  
また、検索画面で説明や文字を控え、イメージや色で表現しているので  
使用者にデザインのすっきり感をアピールして快適な検索経験を引き出すようにしました。  
シンプルな画面で逆により長く記憶に残るようにデザインしました。

## アドバイスして欲しいポイント

検索地域によって地図に店の位置が表示されていないが、地図の下に検索リストに検索結果が出る場合があります。

これは実際の検索範囲と地図で見られる範囲に誤差が生じることによって発生するものなので、地図を少し縮小すれば、地図に表示されているお店の位置を確認できます。

この問題は特に地図の大きさが小さなモバイル環境でよく見られます。

画面の中であるマップサイズをリアルタイムで追跡し、これに合わせてマップの蓄積や表示範囲を可変的に変更することができれば解決できると思われます。

検索範囲によって一度に検索する検索量が異なります。

最も狭い「廻り」の場合、最大 10 店舗のみ検索でき、

次々と次の範囲である「通り」は、20 個、「町」は 50 個、「区」は 100 個が検索されます。

ただし、画面には一度に 10 個の検索結果だけが表示されるので、生成される検索ページはそれぞれ最大 1、2、5、10 ページになります。

もしこれ以上の検索結果を確認したい場合、「さらに検索」ボタンで確認できます。

自己評価

			備考
開発計画	インタラクティブ地図の実装	○	Leaflet OpenStreetMap 利用
	地図と検索機能の連動	○	
	ロードした結果を他の操作なしですぐに見せる	○	非同期処理利用
	地図のサイズを把握して検索範囲を設定	×	時間不足
	地図の蓄積を把握して検索範囲を設定	○	
	環境によって可変位置・大きさ適用	○	
	環境によってグリッド単位の可変スタイル適用	×	時間不足
	クラウドサービスを通じてホスティング	○	
	接続アドレスにドメイン名を適用	○	ドメイン名は以前に発給したものをそのまま利用
	SSL 認証書を発給させて https 接続可能	○	Let'sEncrypt 利用
	テストで発見したエラー		
エラー処理	店の catch がない	完	空欄を説明なしで代わる
	サムネイルイメージがない	完	サムネイルと大きさが同じ店のイメージで代替
	探した店がマップの見られる範囲以外にある	未	
	検索結果が 10 個未満の場合参照エラー発生	完	Try catch で解決
	検索結果がない時、画面に反応なし	完	If 文で処理
	検索結果がない時も「さらに検索」ボタンがでる	完	If 文で処理

DRAFT